

日本労働年鑑 第58集 1988年版
The Labour Year Book of Japan 1988

特集 「連合」の結成と労働戦線

「連合」の結成と労働戦線

1 「連合」の発足とその反響

2 「連合」発足の反響

「連合」発足に関する談話・声明

「連合」発足は、当然のことながら、政界・財界・労働界などで大きな反響をまきおこした。ここでは、その一部を紹介しておこう。

竹下登首相＝「与党たる自民党が“連合”にすり寄るのではなく、堂々と抱擁してお付き合い願いたい」(十一月九日の同盟解散記念レセプションでのあいさつ。『毎日新聞』十一月二〇日付)。

「良かった。万歳という意味で快哉(かいさい)だ」(『朝日新聞』十一月二一日付)。

安倍自民党幹事長談話＝「日本の労働運動にとって画期的なできごとだ。大いに歓迎し、ここに至るまでの努力に敬意を表する」(『読売新聞』十一月二一日付)。

社会党山口書記長談話＝「当面、総評と官民一体となって労働組合としての社会的責任を果たしてほしい。次期国政選挙では野党連合政権樹立に向けた努力を積み重ねる」(同前)。

公明党中執委談話＝「『連合』とともに社公民共闘の強化と連合政権樹立への信頼と合意形成に全力を挙げる」(同前)。

民社党大内書記長談話＝「『連合』の重要な運動である政策制度改善の闘いに積極的に応じ、全党あげて努力する」(同前)。

共産党金子書記局長談話＝「『連合』はかつての「大日本産業報国会」にほかならない。労働者の階級的労働運動への結集を望む」(同前)。

鈴木永二日経連会長＝「かねてから、健全な労使関係の発展を願っているわれわれとしては、心から『連合』の誕生をお祝いしたい。いうまでもなく、わが国の労使関係は、企業別の労使関係にその基礎をおいており、その事実には今後とも変化はありえないと思われる。しかし、急激な国際化の進展や産業構造の変化等により、労使が直面する課題の中には、企業レベルでは解決しにくい問題が増えていることにも注目しなければならない。日経連は従来も、全民労協をはじめ主要な労働団体とさまざまな問題について率直な意見交換を重ねてきた。新たに誕生する「連合」とは勤労者全般に関わる重要な政策課題を中心に、これまで以上に意思疎通、相互理解を深め、考え方の一致する問題についてはその解決に努力を惜しまぬ所存である」(『週刊労働ニュース』八七年十一月二七日付)。

真柄総評事務局長＝「本日、『連合』が発足する。総評はこれを労働戦線統一の実現に向けての大いなる前進として歓迎し、ここに至るまでの多くの方々のご努力に心から敬意を表したい。全民労協の『連合』への発展を契機に、土地問題、税制問題、春闘、時短、平和など一致できる課題について、労働者と国民の期待に応える運動を強力に展開し、労戦統一の正しさを運動で明らかにしていくことを心から期待する。総評は全的統一に至る間、『連合』と併存し、『連合』と運動面で協力しながら

ら、一九九〇年を目標とする官・民・地域、三位一体の全的統一の完成に全力をあげる決意である。このための官民代表による本格的話し合いを期待し、自らも取り組むものである」(同前)。

統一労組懇の声明＝「全民労協は大企業本位の自民党反動政治を基本的に支持し、発足以来、反労働者の反国民的役割を事実を通して鮮明にしてきた。いま総評・地評地区労もこの路線に追随して自らを解体しようとしている。いま、わが国の労働運動では大きく『二つの潮流』が鮮明になっている。一つは、統一労組懇を『根城』とし労働者・国民全体の利益擁護を追求し大切にす階級的潮流であり、一つは連合に集結して労組の名で米日反動支配勢力全体の利益擁護を進める右翼的潮流である。労働者・国民の側に立ってその切実な要求実現のために奮闘している階級的潮流にこそ未来がある。労働者・国民の期待と信頼に応えて要求を前進させるためには、統一労組懇の運動と体制強化を一層図りつつ、「共同」行動を広げ、反動勢力と真っ向から対決した闘うナショナル・センターの確立を着実になしとげるために全力をあげることがますます重要となっている」(同前)。

労研センターのアピール＝「政府・自民党、財界の盛大な拍手の中で発足した連合は、労使協調、反共主義、国際自由労連一括加盟の路線を明らかにして、自ら独占資本のよきパートナーであることを明らかにした。政府・自民党の強権的行革攻撃と闘う官公労働者はもちろん、独占の苛酷な収奪にあえぐ膨大な数の中小・下請関連企業で働く労働者や未組織の仲間が、『連合』を信頼し、期待を寄せることはないであろう。総評が『連合』を容認し、これを母体に『全的統一』を夢想し、一九九〇年に自ら解散することを決めたことは重大な誤りであり、社会党がいち早く『連合』支持を決めて党の基本政策の見直しに着手したことは決定的な誤りだと指摘しないわけにはいかない。『連合』に反対する全国の同志に対して、総評の解体に反対し、県評・地区労運動を守り、その戦闘的再生・強化に全力をあげることを心から呼びかける。『八八春闘懇談会』が連合に反対する闘う労働者の全国的結集の場として前進するよう全面的に支持する。また政府・独占の総評解体攻撃の中心環となっている国労と日教組を支援し守ることは、闘う労働戦線構築の緊急の課題である」(同前)。

統一労組懇と「左派」、「連合」反対の集会・デモ

「連合」が発足した一月二〇日前後、各地で「労働戦線の右翼的再編」としてこれに反対する統一労組懇や左派組合などの集会やデモが行われ、「階級的労働運動の総結集」を訴えた。

統一労組懇は、一九日「労働戦線の右翼的再編反対、くらしと権利、平和と民主主義を守る階級的ナショナル・センター確立をめざす」決起集会を開いた。参加者約五〇〇人、市川誠労研センター代表が来賓としてあいさつした。

次いで二〇日には「同盟主導の『連合』に反対、首都労働者総決起集会」。国労東京、民放労連関東、紙パ労連関東をはじめ約五〇〇〇人が参加した。

このほか、京都では一万二〇〇〇人、大阪では約四〇〇〇人、兵庫では四二〇〇人、名古屋では一二〇〇人、仙台一三〇〇人など、統一労組懇と労研センターの代表が参加する集会デモが行われた。

日本労働年鑑 第58集 1988年版

発行 1988年6月25日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

****年**月**日公開開始

